

事務事業調書

平成26年度

事業No	55	課	環境首都推進課	係	環境政策係	起案者	津口嘉己
						決裁者	横山真澄
事務事業名		環境基本計画推進事業			事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 1 環境の保全及び創造 1 協働による環境づくり 9 上記施策以外の施策 9 上記施策以外の施策			予算科目(会計)	一般会計			
				予算科目(款・項・目)	20-10-25			
				総合計画以外の計画	環境基本計画			
				関連する総合計画の施策	1-1-1-9-9, 1-1-2-9-9, 1-1-3-9-9			
				性質区分	市の内部事務事業			
根拠法令	有	市環境基本条例第7条、第9条、第22条						
法定受託事務	無							
公約・議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	直営	委託先						
実施期間	開始	平成13年度	経過	13年目	終了	平成32年度	期間	20年
求める成果(目的)	誰(受益者)が	市民、事業者が			~になる	環境基本計画に基づく市の取り組み状況を正しく理解できます。		
事務事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆環境基本条例に基づく年次報告書(環境報告書)を作成し、市の環境行政の状況を公表するものです。 ◆環境報告書は、環境基本計画に基づくの取り組み状況を広く周知するためのものです。 ◆報告書に対する市民からの意見募集を行い、意見を施策に反映させています。 ◆環境審議会では、環境基本計画の進捗状況及び計画内容を審議しています。 							
改善・対策の履歴	環境報告書が完成した段階で、環境審議会を開催し報告するとともに、公民館等の公共施設にて配布しています。							

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)	
総事業費	2,942	4,866	3,370	2,789	5,280	
財源計	422	456	850	269	870	
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他()	0	0	0	0	0
	一般財源	422	456	850	269	870
受益者負担金	0	0	0	0	0	
職員人件費(従事職員数)	2,520 (0.40)	4,410 (0.70)	2,520 (0.40)	2,520 (0.40)	4,410 (0.70)	
人事課予算分人件費	0	0	0	0	0	

3 各活動にかかるコスト

			年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動1	活動名 (活動内容)	環境報告書の作成	見込	1,000.00	700.00	700.00	700.00
			実績	700.00	700.00	500.00	
	指標名 (単位)	発行部数(部)	活動の総事業費(千円)	1,292	3,508	2,077	
			活動にかかるコスト(千円)	1.85	5.01	4.15	
活動2	活動名 (活動内容)	環境審議会の開催	見込	1.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	1.00	
	指標名 (単位)	開催数(回)	活動の総事業費(千円)	390	1,358	712	
			活動にかかるコスト(千円)	390.00	1,358.00	712.00	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費(千円)				
			活動にかかるコスト(千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	環境報告書を作成したか否か(1→制作した、2→制作しなかった)(制作の有無)			目標	1.00	1.00	1.00	1.00
				実績	1.00	1.00	1.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	
成果2				目標				
				実績				
	目標達成年度	目標成果指標値		達成状況				

5 成果1、2以外の成果

成果	<p>◆環境報告書は本市の環境への取り組みについて分かりやすく記述されているため、市民や職員への研修や講座、他自治体の視察等で、市の環境施策の現状を説明する資料として使用しています。</p>
----	---

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	平成25年度の環境報告書は、ページ編集の見直しを行い、ページ数の削減をはかったため、印刷製本コストの削減を図ることができました。
成果	全庁的に行っている様々な環境施策を詳細に、環境基本計画の体系に沿って報告書としてまとめられているため、分かりやすいものになっています。環境審議会については、環境基本計画の策定組織としての位置づけがある中で、市としての戦略的な取り組み、懸案事項などを協議する場として機能しています。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
<p>環境基本計画の数値目標等成果指標を再確認し、進捗管理を確実にを行います。その結果を環境報告書としてさらに分かりやすくまとめ、広く市民にお知らせします。</p>

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	<p>環境基本計画の進捗を管理し、これを公表することは、環境首都をめざすうえで必要不可欠です。環境基本計画の推進について継続的な見直しを行い、適切な事務事業の推進に努めます。</p>

事務事業調査

平成26年度

事業No	54	課	環境首都推進課	係	環境政策係	起案者	津口嘉己
						決裁者	横山真澄
事務事業名	環境マネジメントシステム維持管理事務				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 1 環境の保全及び創造 1 協働による環境づくり 4 環境にやさしい行動 3 市の率先行動			予算科目(会計)	一般会計	
				予算科目(款・項・目)	20-10-25	
				総合計画以外の計画	環境基本計画	
				関連する総合計画の施策	1-1-1-4-3	
				性質区分	市の内部事務事業	
根拠法令	無					
法定受託事務	無					
公約・議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	直営	委託先				
実施期間	開始	平成12年度	経過	14年目	終了	期間
求める成果(目的)	誰(受益者)が	安城市版環境マネジメントシステムが			~になる	庁内で適性に運用される環境を維持します。
事務事業の内容	本事業は、安城市版環境マネジメントシステム(EMS)を維持管理する事業です。EMSは、安城市地球温暖化対策実行計画(事務事業編)において市役所自らが地球環境の継続的な改善のための総合的な行動を確実に遂行する実行手段の道具とされ、EMSを活用することにより省エネルギー・省資源等に率先して取り組むとされています。市長が定めた環境方針においてもEMSの適切性、有効性を見直すことにより継続的改善に取り組んでいくことが明記されています。					
改善・対策の履歴	システムを円滑に回すため、内部監査員によるシステム検討会議を開催しています。書類入力にかかる手間を短縮するため、システム様式に自動計算機能を追加しました。環境基本計画の改訂に合わせ、新たな基本方針にシステムの体系を整えました。平成23年度に適合範囲の拡大を検討しました。(平成24年度より実施)平成24年度にISO事務の効率化を図るため、作成書類の見直しを検討し改善しました。平成25年度に品質マネジメントシステムと内部監査業務を統合し、合同で内部監査を行いました。					

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	4,848	6,150	5,108	4,766	4,349
財源計	438	480	698	356	569
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他()	0	0	0	0
	一般財源	438	480	698	356
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費(従事職員数)	4,410 (0.70)	5,670 (0.90)	4,410 (0.70)	4,410 (0.70)	3,780 (0.60)
人事課予算分人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト

			年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動1	活動名 (活動内容)	外部環境監査員による監査	見込	1.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	1.00	
	指標名 (単位)	受審回数(回)	活動の総事業費 (千円)	1,905	1,905	645	
			活動にかかるコスト (千円)	1,905.00	1,905.00	645.00	
活動2	活動名 (活動内容)	環境審査員研修	見込	1.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	1.00	
	指標名 (単位)	派遣人数(人)	活動の総事業費 (千円)	945	984	341	
			活動にかかるコスト (千円)	945.00	984.00	341.00	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	環境方針に基づくEMSの継続的改善(1:取組んだ、2:取組まなかった)(取組み有無)			目標	1.00	1.00	1.00	1.00
				実績	1.00	1.00	1.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成	
成果2				目標				
				実績				
	目標達成年度	目標成果指標値		達成状況				

5 成果1、2以外の成果

成果	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成25年度の継続的改善成果は、経営管理課が所管する品質管理システムとの内部監査の統合を実現したことです。別々に実施していた内部監査を合同で実施することにより事務の効率化を図りました。 ◆全職員がEMSに取り組むことにより、環境配慮を意識しつつ業務に従事しています。
----	---

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	EMSが適性に運用されているか検証する内部監査は、非常に重要です。ISO14001の審査資格である「環境審査員補」資格を取得するため、職員を毎年1名研修会に派遣しています。公的認証を返上し経費の大幅な削減を行いました。
成果	更なる事務の効率化を図るため、品質管理マネジメントシステムとの統合に向け経営管理課との検討を継続していきます。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
<ul style="list-style-type: none"> ◆システムの継続的な改善により、より効果的な環境マネジメントシステム構築を行います。 ◆行政改革アクションプランに従い、更なる効率化に向け、経営管理課と品質管理マネジメントシステムと環境マネジメントシステムの統一も継続して検討します。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	環境首都を目指すうえで、施策の根幹をなす環境基本計画の適正な進捗管理、率先した市役所の環境への取り組みは不可欠です。外部評価の結果を踏まえ、環境マネジメントシステムについて見直しを継続し、適切な事務事業の改善に努めます。

事務事業調書

平成26年度

事業No	56	課	環境首都推進課	係	環境政策係	起案者	津口嘉己
						決裁者	横山真澄
事務事業名		環境アドバイザー等支援事業			事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 1 環境の保全及び創造 1 協働による環境づくり 2 環境教育・学習 2 環境アドバイザーなどの人材の育成			予算科目(会計)	一般会計	
				予算科目(款・項・目)	20-10-25	
				総合計画以外の計画	環境基本計画	
				関連する総合計画の施策	1-1-1-2-2, 1-1-1-2-3	
				性質区分	市の内部事務事業	
根拠法令	無					
法定受託事務	無					
公約・議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	直営	委託先				
実施期間	開始	平成15年度	経過	11年目	終了	期間
求める成果(目的)	誰(受益者)が	市民(環境アドバイザー)が		~になる	市民自らの手により環境に関する意識啓発ができます。	
事務事業の内容	環境に対して専門的、先進的な知識や技術を持つ環境アドバイザーを育成し、小中学校の総合学習や地域における環境学習会等に講師として派遣します。また、環境アドバイザーの技術向上を目的とした研修会を開催したり、環境アドバイザーへの情報提供、講師として紹介など環境アドバイザー活動の支援を行います。					
改善・対策の履歴	スキルアップ講座と養成講座を隔年で実施しています。 平成24年度はスキルアップ講座 平成25年度は養成講座 平成26年度はスキルアップ講座					

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	1,274	3,689	2,260	1,894	2,890
財源計	644	539	1,000	634	1,000
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他()	0	0	0	0
	一般財源	644	539	1,000	634
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	630 (0.10)	3,150 (0.50)	1,260 (0.20)	1,260 (0.20)	1,890 (0.30)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト

			年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動1	活動名 (活動内容)	環境アドバイザー養成 又はスキルアップ講 座の実施	見込	8.00	2.00	4.00	4.00
			実績	2.00	6.00	4.00	
	指標名 (単位)	アドバイザー向け講座実 施回数(回)	活動の総事業費 (千円)	707	2,690	740	
			活動にかかるコスト (千円)	353.50	448.33	185.00	
活動2	活動名 (活動内容)	環境アドバイザー派遣	見込	50.00	50.00	50.00	50.00
			実績	78.00	51.00	87.00	
	指標名 (単位)	派遣回数(回数)	活動の総事業費 (千円)	567	999	1,154	
			活動にかかるコスト (千円)	7.27	19.59	13.26	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	環境アドバイザー派遣回数(回)			目標	50.00	50.00	50.00	50.00
				実績	78.00	51.00	87.00	
	目標達成年度	平成27年度	目標成果指標値	54.00	達成状況	達成	達成	達成
成果2				目標				
				実績				
	目標達成年度		目標成果指標値		達成状況			

5 成果1、2以外の成果

成果	環境アドバイザーが自主的にグループをつくり、定期的な打ち合わせをしながら、自主活動を実践するようになりました。平成25年度より環境アドバイザーに環境に関する情報提供を定期的(月1回)に行っています。
----	---

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	環境アドバイザーのスキルアップ及び新規養成については、より専門的技術や知識を有する専門家を招いて研修会を開催する必要があります。外部講師は経費がかかりますが、環境アドバイザーの技術力向上を図るために有効です。
成果	平成24年度より環境アドバイザーの全体会を開催し、グループ単位での成果報告を行いました。グループ単位の活動が基本であるアドバイザーの相互交流及び情報交換ができました。高い専門的技術や知識を有する講師による研修会を企画するとともに、情報提供にも取組んでいく必要があります。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
環境アドバイザーの資質の向上を図るため、環境アドバイザーへの研修、アドバイザー活動への支援も重要です。保育園、町内会など新しい活動場所を提供できるよう努力します。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	市民との協働による環境学習を推進していくためには、環境アドバイザーの活動は重要です。環境アドバイザー制度の運用については適宜見直しを図り、適切な事務事業の推進に努めます。

事務事業調書

平成26年度

事業No	60	課	環境首都推進課	係	環境政策係	起案者	津口嘉己
						決裁者	横山真澄
事務事業名	地球温暖化対策地域協議会事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 1 環境の保全及び創造 1 協働による環境づくり 1 協働する体制づくり 1 各主体間の協働関係の強化			予算科目(会計)	一般会計	
				予算科目(款・項・目)	20-10-25	
				総合計画以外の計画	環境基本計画	
				関連する総合計画の施策		
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの	
根拠法令	有	地球温暖化対策の推進に関する法律第26条				
法定受託事務	無					
公約・議会答弁	有	環境基本計画推進の一翼を担う事業と位置づけ、支援していく旨 (H18.3)				
陳情・市民要望	無					
実施方法	全部委託	委託先	行政関連団体			
実施期間	開始	平成18年度	経過	8年目	終了	期間
求める成果(目的)	誰(受益者)が	市民、市民団体、事業者、市が		~になる	相互の連携と協働体制の下で環境活動を推進しています。	
事務事業の内容	地球温暖化対策地域協議会「エコネットあんじょう」を環境基本計画の推進を図る組織として位置づけ、その活動を支援することで市民、市民団体、事業者、市の協働による環境に配慮した行動を促し、地域の良好な環境の保全と創造を推進します。					
改善・対策の履歴	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成24年度よりエコネットあんじょう・安城市共催で「矢作川水源地域の森林保全を考えるフォーラム」を開催しています。 ◆資源回収拠点にリユース機能を加えた「エコセンターあんじょう」の管理運営に取り組んでいます。 ◆環境協働事業を実践するパートナーであり、NPO法人格を有する組織であるため、独立性・自主性を尊重しつつ良好な関係を構築していきます。 					

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)	
総事業費	7,527	8,750	9,284	9,237	10,724	
財源計	5,637	5,600	5,504	5,457	10,409	
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他()	619	1,204	1,100	1,102	1,100
	一般財源	5,018	4,396	4,404	4,355	9,309
受益者負担金	0	1,204	1,100	0	1,100	
職員人件費 (従事職員数)	1,890 (0.30)	3,150 (0.50)	3,780 (0.60)	3,780 (0.60)	315 (0.05)	
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0	

3 各活動にかかるコスト

			年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動1	活動名 (活動内容)	エコネットあんじょうによる環境保全活動	見込	34.00	40.00	45.00	50.00
			実績	35.00	59.00	49.00	
	指標名 (単位)	市民、市民団体、事業者参加による(件数)	活動の総事業費 (千円)	630	8,750	9,237	
			活動にかかるコスト (千円)	18.00	148.31	188.51	
活動2	活動名 (活動内容)	エコセンターあんじょう移設工事 H26のみ	見込	0.00	0.00	0.00	1.00
			実績	0.00	0.00	0.00	
	指標名 (単位)	移設工事実施1：実施、2：未実施(実施状況)	活動の総事業費 (千円)	0	0	0	
			活動にかかるコスト (千円)	0.00	0.00	0.00	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	市民、市民団体、事業者と市のパートナーシップによる環境保全活動件数(件)			目標	34.00	40.00	45.00	50.00
				実績	35.00	59.00	49.00	
	目標達成年度	平成27年度	目標成果指標値	54.00	達成状況	達成	達成	達成
成果2				目標				
				実績				
	目標達成年度		目標成果指標値		達成状況			

5 成果1、2以外の成果

成果	◆環境協働事業の他にも、魅力的な事業とするため活動内容の見直しと充実に積極的に取り組んでいます。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	環境協働事業として業務委託契約を締結しています。平成26年度は、「エコセンターあんじょう」の場所移転に伴う工事請負費を予算化したため事業費が上がっています。
成果	環境協働事業の業務委託に関しては、活動内容の改善に積極的に取組むことにより、より魅力的な環境保全活動を展開していく必要があります。その他市の環境課題解決のための活動にも積極的に取り組んでいます。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
「エコネットあんじょう」は、市の委託により環境協働事業を実施しています。実施事業については、事業の有効性・効率性等内容を精査し、契約内容と適合しているか確認とフォローアップが必要です。環境首都を目指す本市の環境施策を進める中心的な組織として、信頼関係を強固なものにするともに、組織の自主性、自立性を引き出し、各種事業の活発化を支援します。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	認定NPO法人エコネットあんじょうは、環境基本計画の推進を図る組織として設立したことから、その自律的な事業運営を促す支援を継続することにより、効果的な環境協働事業の展開を図ります。

事務事業調書

平成26年度

事業No	58	課	環境首都推進課	係	環境政策係	起案者	津口嘉己
						決裁者	横山真澄
事務事業名		環境意識啓発事業			事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 1 環境の保全及び創造 1 協働による環境づくり 4 環境にやさしい行動 1 家庭におけるエコライフの促進			予算科目(会計)		一般会計
				予算科目(款・項・目)		20-10-25
				総合計画以外の計画		環境基本計画
				関連する総合計画の施策		
				性質区分	市の内部事務事業	
根拠法令	無					
法定受託事務	無					
公約・議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	直営	委託先				
実施期間	開始	平成15年度	経過	11年目	終了	期間
求める成果(目的)	誰(受益者)が	各家庭が			~になる	環境に配慮したライフスタイルを送るようになります。
事務事業の内容	市民一人ひとりが地球的な視点に立ち、省資源・省エネルギー・リサイクルなどを実践していくことにより環境への負荷を軽減するためには、身近なところから着実に行動していくことが大切です。本事業は市民の環境に関する意識向上を図ることにより、環境に配慮したライフスタイルへの転換を促進します。					
改善・対策の履歴	エコライフひろめ隊 登録世帯数 平成25年度末現在、343世帯 平成24年度に開催した市制60周年記念事業「Anjo Cycle Festaワールドじゃんだら輪」は、参加者が約1000名の大規模なイベントであり、安城市がエコサイクルシティであることを強くPRすることができました。また、中部環境先進5市(多治見、安城、新城、掛川、飯田)共同で「メッセナゴヤ2013」及び「安城市産業フェスティバル」にブース出展を行いました。 平成25年度は、市民が環境配慮活動に取組むきっかけづくりとして「安城市版エコポイント制度」を創設しました。					

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)	
総事業費	1,385	14,124	8,829	8,365	49,268	
財源計	125	7,824	2,529	2,065	39,818	
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	0	
	市債	0	0	0	0	
	その他()	0	2,256	100	142	4,000
	一般財源	125	5,568	2,429	1,923	35,818
受益者負担金	0	2,256	100	0	4,000	
職員人件費 (従事職員数)	1,260 (0.20)	6,300 (1.00)	6,300 (1.00)	6,300 (1.00)	9,450 (1.50)	
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0	

3 各活動にかかるコスト

		年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
活動1	活動名 (活動内容)	安城版エコポイント制度 ※h25より	見込	0.00	0.00	500.00	500.00
			実績	0.00	0.00	75.00	
	指標名 (単位)	参加人数(人)	活動の総事業費 (千円)	0	0	6,499	
			活動にかかるコスト (千円)	0.00	0.00	86.65	
活動2	活動名 (活動内容)	TASK1プロジェクト	見込	0.00	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	1.00	1.00	
	指標名 (単位)	首長サミットの実施(回数)	活動の総事業費 (千円)	1,385	2,224	1,415	
			活動にかかるコスト (千円)	1,385.00	2,224.00	1,415.00	
活動3	活動名 (活動内容)	電気自動車等購入補助金制度の実施 H26	見込	0.00	0.00	0.00	1.00
			実績	0.00	0.00	0.00	
	指標名 (単位)	実施→1、未実施→2(実施有無)	活動の総事業費 (千円)	0	0	0	
			活動にかかるコスト (千円)	0.00	0.00	0.00	

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	エコライフひろめ隊世帯数(世帯)			目標	300.00	300.00	300.00	300.00
				実績	343.00	343.00	343.00	
	目標達成年度	平成27年度	目標成果指標値	320.00	達成状況	達成	達成	達成
成果2				目標				
				実績				
	目標達成年度		目標成果指標値		達成状況			

5 成果1、2以外の成果

成果	平成25年度は、前年度に続きTASK1プロジェクトとして「メッセナゴヤ2013」に5市共同ブースを出展しました。今後も継続して情報発信に取組むとともに更なる目標に向かって協議を重ねていきます。また、EXPOANJOにて、本市と新城市の企業マッチングが実現しました。現在、商品化に向け共同の取組みが進行中です。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	エコポイント制度は、市内を中心とする企業のご協賛により136名分の賞品を準備することができました。中部環境先進5市(TASK1プロジェクト)は、中部地方の環境先進自治体の集まりです。貴重な情報交換、政策議論の場となりました。平成24年度はツールドじゃんだら輪開催、平成25年度はエコポイント制度開始、平成26年度は電気自動車等補助事業、燃料電池車購入、超小型電気自動車購入、ESDユネスコ世界会議記念イベント東海エコフェスタin安城開催のため予算規模が大きくなっています。
成果	環境意識啓発の向上を図るため、エコポイント制度を創設しましたが、目標としていた参加者数を下回ってしまいました。これは制度を市単独で展開しようとしたこと、PR活動が不足していたことが原因だと分析します。この反省を踏まえ、平成26年度は市民団体と協働で制度のPRを行うとともに、ポイント付与対象メニューに市民団体が主催する活動への参加を認めるなどの制度の見直しを行い参加者増加を図ります。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
安城市版エコポイント制度の普及促進に努めるとともに、事業効果の検証を行い、今後の展開方法について検討が必要です。TASK1プロジェクトは、一層連携を強化し、新たな取組みに努めます。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	環境意識啓発による、市民の自発的な活動は環境への負荷を軽減するためには重要です。意識啓発に繋がる施策を提供することにより、環境に配慮したライフスタイルへの転換を促進します。

事務事業調書

平成26年度

事業No	834	課	環境首都推進課	係	環境政策係	起案者	津口嘉己
						決裁者	横山真澄
事務事業名	新エネルギー導入事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 1 環境の保全及び創造 2 地球環境 1 地球温暖化対策 2 新エネルギーの導入			予算科目(会計)	一般会計	
				予算科目(款・項・目)	20-10-25	
				総合計画以外の計画	環境基本計画	
				関連する総合計画の施策	1-1-2-1-2	
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの	
根拠法令	無					
法定受託事務	無					
公約・議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	直営	委託先				
実施期間	開始	平成21年度	経過	5年目	終了	期間
求める成果(目的)	誰(受益者)が	市民が		~になる	積極的に新エネルギーを導入しています。	
事務事業の内容	家庭における新エネルギー※の導入促進を図るため、設置者に対して補助金を交付します。 補助事業：住宅用太陽光発電システム設置補助金制度 住宅用太陽熱高度利用システム設置補助金制度 住宅用太陽熱温水器設置補助金制度 また公共施設の新・増改築に際しては率先して新エネルギー機器を導入します。 ※新エネルギーとは石油・石炭に代わる環境への負荷の少ない新しい形態のエネルギーのこと（太陽光・熱、風力、地熱等の自然エネルギーのほか、コージェネレーション、燃料電池などがある）					
改善・対策の履歴	【H23年度】 太陽光補助金制度に変更、減額し上限額を設けました。 太陽光70,000円/Kw（上限6kw） 太陽熱16,000円/㎡ 温水器10,000円/㎡ 【H24年度、H25年度】 太陽光40,000円/Kw（上限4kw） 太陽熱13,000円/㎡（上限8㎡） 温水器10,000円/㎡（上限8㎡）					

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)	
総事業費	184,237	109,508	119,450	103,590	64,190	
財源計	179,827	103,208	110,000	94,140	56,000	
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0	
	県支出金	8,276	6,139	4,660	6,222	4,300
	市債	0	0	0	0	0
	その他()	0	0	0	0	0
	一般財源	171,551	97,069	105,340	87,918	51,700
受益者負担金	0	0	0	0	0	
職員人件費 (従事職員数)	4,410 (0.70)	6,300 (1.00)	9,450 (1.50)	9,450 (1.50)	8,190 (1.30)	
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0	

3 各活動にかかるコスト

		年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
活動1	活動名 (活動内容)	太陽光発電補助金交付申請	見込	500.00	500.00	500.00	500.00
			実績	596.00	677.00	618.00	
	指標名 (単位)	申請件数(件)	活動の総事業費(千円)	182,717	108,533	103,590	
			活動にかかるコスト(千円)	306.57	160.31	167.62	
活動2	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費(千円)				
			活動にかかるコスト(千円)				
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費(千円)				
			活動にかかるコスト(千円)				

4 成果指標と実績の推移

		指標名(単位)	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	市内における太陽光発電設備容量(累計)(kW-累計)		目標	3,600.00	3,600.00	3,600.00	3,600.00
			実績	8,548.00	11,832.00	14,700.00	
		目標達成年度 平成27年度 目標成果指標値 3,940.00	達成状況	達成	達成		
成果2	太陽光発電の設置してある公共施設(累計)(設置施設数)		目標	17.00	17.00	17.00	17.00
			実績	28.00	32.00	39.00	
		目標達成年度 平成27年度 目標成果指標値 18.00	達成状況	達成	達成	達成	

5 成果1、2以外の成果

成果	毎年、相当数の太陽光発電システムが住宅の屋根に設置されることにより、市民の新エネルギーに対する意識が向上し、次年度以降の補助申請件数が増加することが期待できます。
----	---

6 各活動にかかるコストと成果の分析

		内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等
活動コスト	平成24年度より、太陽光発電システム1kWあたり40,000円補助しています。上限を4kwとしたため1世帯あたり最大160千円を補助しています。また太陽熱高度利用システムは1㎡あたり13,000円を補助しています。平成23年度より太陽熱温水器設置補助1㎡10,000円を開始しました。	
成果	太陽光発電システム、太陽熱高度利用システム及び太陽熱温水器設置等自然エネルギーを利用したシステムを導入することは、非常に重要です。平成25年度における住宅用太陽光発電システム普及率は、4.9%（設置数3,430件、世帯数70,098世帯）となっています。	

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案	
	年間を通して切れ間なく補助ができる制度とするため、前年度実績を踏まえ適正な予算を計上します。申請する時期によって、補助が受けられないなどの不公平さをなくするため、常時、申請受付できる体制を整えます。環境基本計画の普及率の目標を達成するため、制度の利用促進に努めます。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	地球温暖化の防止と化石燃料の枯渇に備え、新エネルギーの導入は不可欠であるため、事業を継続します。また、既存の補助制度にかわる新エネルギー導入促進策について、調査研究します。

事務事業調書

平成26年度

事業No	836	課	環境首都推進課	係	環境政策係	起案者	津口嘉己
						決裁者	横山真澄
事務事業名		環境学習推進事業			事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 1 環境の保全及び創造 1 協働による環境づくり 2 環境教育・学習			予算科目(会計)	一般会計	
				予算科目(款・項・目)	20-10-25	
				総合計画以外の計画	環境基本計画	
				関連する総合計画の施策	1-1-1-2-1, 1-1-1-2-3	
				性質区分	特定の市民や団体を対象にしたもの	
根拠法令	無					
法定受託事務	無					
公約・議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	一部委託	委託先	その他(個人)			
実施期間	開始	平成21年度	経過	5年目	終了	期間
求める成果(目的)	誰(受益者)が	市民が		~になる	いつでも環境学習することができます。	
事務事業の内容	くらしが自然にどう支えられ、自然をどう利用してきたかを考えながら、環境に対する理解を深めるとともに、自然・歴史や文化・産業・伝統といった地域資源を活用しながら、地域や地球環境との望ましい関係を築いていくために学びあう環境学習を推進します。					
改善・対策の履歴	人気マンガ家鳥山明氏の書き下ろしマンガ「おいしい島のウーさま」を採り入れた環境学習テキストを製作し、本テキストを教材にした環境学習プログラム「安城市子どもぐるぐるゼミナール」を考案し、市内各所で開催しました。自治体間交流のある長野県根羽村をフィールドとした自然環境学習講座「わくわくネイチャースクール」を平成24年度より毎年実施しています。平成26年度は、小学4年から6年生を対象とした農家民泊を採用した新しいスタイルの講座を企画しました。					

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度	
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)	
総事業費	2,516	8,336	6,431	6,196	4,264	
財源計	1,256	4,556	1,391	1,156	1,744	
財源の内訳	国庫支出金	0	1,500	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0
	その他()	0	0	0	0	0
	一般財源	1,256	3,056	1,391	1,156	1,744
受益者負担金	0	0	0	0	0	
職員人件費(従事職員数)	1,260 (0.20)	3,780 (0.60)	5,040 (0.80)	5,040 (0.80)	2,520 (0.40)	
人事課予算分人件費	0	0	0	0	0	

3 各活動にかかるコスト

		年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
活動1	活動名 (活動内容)	わくわくネイチャースクールの開催	見込	7.00	3.00	2.00	1.00
			実績	7.00	3.00	3.00	
	指標名 (単位)	開催回数(回)	活動の総事業費 (千円)	2,516	2,490	2,415	
			活動にかかるコスト (千円)	359.43	830.00	805.00	
活動2	活動名 (活動内容)	安城市こどもぐるぐるゼミナールの開催 ※h25より	見込	0.00	0.00	12.00	12.00
			実績	0.00	0.00	13.00	
	指標名 (単位)	ぐるぐるゼミナールの開催回数(回)	活動の総事業費 (千円)	0	0	3,781	
			活動にかかるコスト (千円)	0.00	0.00	290.85	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	環境学習講座参加者数(人)			目標	20.00	20.00	20.00	30.00
				実績	28.00	39.00	17.00	
	目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	未達成	
成果2				目標				
				実績				
	目標達成年度	目標成果指標値		達成状況				

5 成果1、2以外の成果

成果	安城市内でのわくわくネイチャースクールを2回及び長野県根羽村での一泊2日のわくわくネイチャースクールを1回開催することにより、根羽村の人たちとの交流をすることができました。また、私たちの命を支える水を生産する水源の森を見学し、かつ森林保全に必要な不可欠な間伐体験をしたことは、地球の将来を担う子どもたちに貴重な経験を積んでもらうことができたと考えています。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	根羽村のNPO法人と業務委託契約をすることにより、コストの削減と効果的な事業実施につながっています。
成果	以前は地元のアウトドアタレントに業務委託しておりましたが、それと比較して密度の濃い事業になったと分析しております。わくわくネイチャースクールへの参加が契機となり、環境に興味を持ってくれることを期待します。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
私たちが使う貴重な水を生み出す水源の森を保全する間伐作業や地元で暮らす方々との交流は、自分で体験することが重要だと考えています。しかし、他部署においても類似したイベントを実施していますのでそれらとの統合若しくは、環境協働事業での実施などを検討していきます。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	環境学習事業は、非常に重要な事業です。様々な学習事業を企画立案し学びの機会を提供する必要があります。秋葉いこいの広場環境学習センターと連携しつつ事業を維持・継続していきます。

事務事業調書

平成26年度

事業No	1003	課	環境首都推進課	係	環境政策係	起案者	津口嘉己
						決裁者	横山真澄
事務事業名		秋葉いこいの広場施設管理運営事業			事業種別	施設管理	

1 事業概要

総合計画体系	1 安全で循環型社会を築く環境づくり 1 環境の保全及び創造 1 協働による環境づくり 3 環境情報 2 環境情報の発信・交流の促進			予算科目(会計)	一般会計	
				予算科目(款・項・目)	20-10-25	
				総合計画以外の計画	安城市環境基本計画	
				関連する総合計画の施策		
				性質区分	市の内部事務事業	
根拠法令	無					
法定受託事務	無					
公約・議会答弁	無					
陳情・市民要望	無					
実施方法	全部委託	委託先	民間企業			
実施期間	開始	平成23年度	経過	3年目	終了	期間
求める成果(目的)	誰(受益者)が	市民に		~になる	環境学習の機会を提供するとともに情報提供を行います	
事務事業の内容	秋葉いこいの広場施設の指定管理者による管理運営を行うとともに環境学習施設機能を持たせ、環境保全に関する情報の発信と環境活動を介在した市民協働及び市民交流の実践の場とします。					
改善・対策の履歴	指定管理者との意思疎通及び連携を図るため、定例的な打合せを実施しています。指定管理者は、管理職及び現場担当者が参加することにより、社内の情報共有を図るとともに、迅速な対応が可能となります。					

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	37,410	38,745	19,680	19,231	53,013
財源計	36,150	38,115	17,790	17,341	48,603
財源の内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0
	その他()	0	0	0	0
	一般財源	36,150	38,115	17,790	17,341
受益者負担金	0	0	0	0	0
職員人件費 (従事職員数)	1,260 (0.20)	630 (0.10)	1,890 (0.30)	1,890 (0.30)	4,410 (0.70)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト

		年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
活動1	活動名 (活動内容)	指定管理者と市担当者との協議	見込	8.00	6.00	12.00	12.00
			実績	27.00	12.00	12.00	
	指標名 (単位)	開催数(回)	活動の総事業費 (千円)	630	630	1,890	
			活動にかかるコスト (千円)	23.33	52.50	157.50	
活動2	活動名 (活動内容)	環境学習センターとしての活動	見込	5,000.00	7,000.00	10,000.00	10,000.00
			実績	7,692.00	10,162.00	7,704.00	
	指標名 (単位)	来館者数(部屋使用者除く)(人)	活動の総事業費 (千円)	36,780	17,871	17,341	
			活動にかかるコスト (千円)	4.78	1.76	2.25	
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

		指標名(単位)	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	環境学習センター企画講座の開催(開催数)		目標	0.00	6.00	25.00	40.00
			実績	27.00	31.00	31.00	
		目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成
成果2	環境学習センター来館者数(貸部屋利用者及びテニスコート利用者を除く)(名)		目標	0.00	7,000.00	10,000.00	10,000.00
			実績	7,692.00	10,162.00	7,704.00	
		目標達成年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	未達成

5 成果1、2以外の成果

成果	指定管理者より活動報告を月1回受けています。利用用途ごとの利用者人数、企画イベントごとの参加人数等詳細な報告書により、活動内容について指定管理者と議論することができます。より多くの方に環境学習センターを利用していただくためにはどうしたら良いか検討しています。
----	---

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	職員人件費は、指定管理者との打合せに係るものです。たくさんの方が来館する施設にするため、指定管理者と検討していく必要があります。
成果	環境学習センターは、環境学習機能に加え、環境団体同士の情報交換、環境に興味のある市民への情報発信も担っていくべきであると考えています。市民が「環境学習センターに行けば環境に関する情報を入手できる。」と認識してくれるような施設にしなければいけません。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
講座カリキュラム、展示の充実を図るよう、市民の提言などを積極的に取り入れるとともに、指定管理者との意思疎通、連携を図ります。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	秋葉いこいの広場環境学習センターは、本市の環境学習拠点施設です。環境に関するあらゆる情報が集まり、情報を必要とする団体や市民に提供できるような施設にする必要があります。また、企画講座カリキュラム及び展示内容の充実も重要です。指定管理者と協力して取り組んでいく必要があります。